



インドのSDV対応パートナー訪問

日本貿易振興機構（ジェトロ）

ベンガルール事務所

2026年2月

1 | ツアー概要

- Japan India Mobility Summitの翌日、日本企業と提携が進むSDVパートナーを訪問します。

- 目的

日本企業と提携が進むSDVパートナーを訪問し、今後の取組を議論する。

- 時期

2026年3月10日（火）

- 場所

ベンガルール近郊

- 内容

10–20名程度

- 内容

- ・TATA ELXSI訪問（スズキ、アルプスアルパインと提携実績あり）
- ・KPIT訪問（ホンダと提携実績あり）

- 申込

[【申込フォーム】 3月10日 SDVパートナー訪問ツアー](#)

2 | スケジュール・地図

- ツアーのスケジュール・地図は以下の通り。

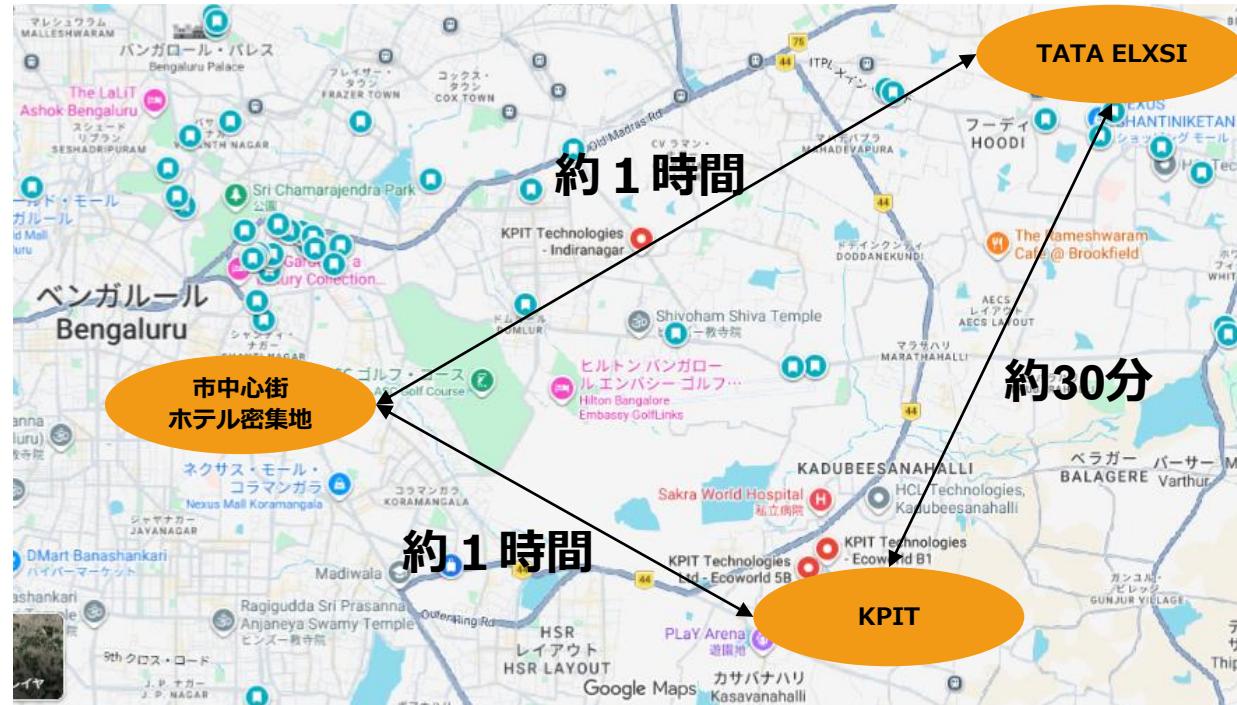
—3月10日（火）※現地集合・現地解散

10:00-12:00 TATA ELXSI訪問

12:00-13:00 移動

12:00-13:00 ランチ

13:00-15:00 KPIT訪問



3 | なぜSDV対応にインドが重要なのか？

- SDV対応でソフトウェア技術者の獲得競争が激化する中、人材豊富なインドが注目されている。

日経新聞「トヨタもホンダもソフト技術者争奪 2兆円市場の担い手」

2024年6月26日

<https://www.nikkei.com/article/DGXZQOUC241N30U4A620C2000000/>



自動車業界でソフトウェア技術者の獲得競争が激化している。クルマの付加価値をソフトの力で高める「ソフトウェア・デファインド・ビークル（SDV、ソフト定義車両）」の時代が到来し、ソフトが製品の競争力を左右するようになったためだ。自動車各社はIT（情報技術）企業との外部連携などで専門人材の確保を急ぐ。

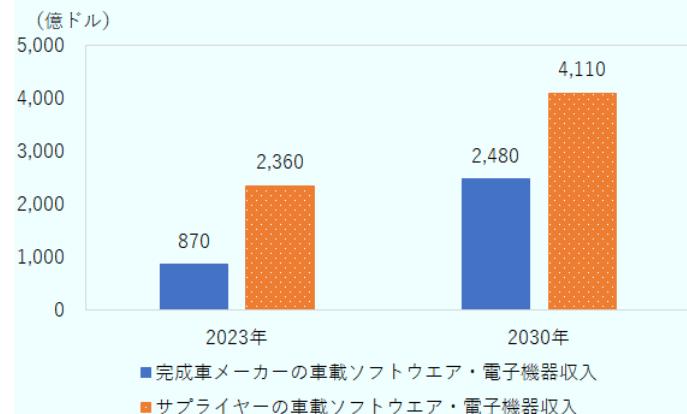
JETRO地域分析レポート「車載ソフトウェア開発、日本企業のインド活用進む」

2024年04月05日

<https://www.jetro.go.jp/biz/areareports/2024/bfc7cfe9c5c909c9.html>

車載ソフトウェア開発で、日本企業のインド活用が進んでいる。インドの車載ソフト専業KPIテクノロジーズ（以下、KPI）は、その好例。2022年度の日本向け事業が前年度比で30%増加している。市場形成が徐々に進むと見込まれるソフトウェア定義自動車（SDV：Software Defined Vehicle）開発に向け、キーブレーヤーの一角を占めている。

片や、日本国内では人手不足だ。そうしたことから、その他の車載ソフトウェア開発でも、人材が豊富なインドに注目が集まる。その足掛かりを築いている企業の動きを追った。



4 | TATA ELXSI と日本企業の提携

- TATA ELXSIはスズキやアルプスアルパインとSDVについて提携している。

インドのタタ・エレクシー社が
「SUZUKI-TATA ELXSI Cloud HIL Center」
を設置

2025年8月21日

<https://www.suzuki.co.jp/release/d/2025/0821a/>



アルプスアルパインとタタ・エレクシーが次
世代車載ソフトウェア開発で戦略的長期契約、
グローバルエンジニアリングセンターを設立
2023年04月07日

<https://www.alpsalpine.com/j/news/detail/2023-0407-01/>



インドのタタ・エレクシー社が
「SUZUKI-TATA ELXSI Offshore
Development Center」を設置

2024年11月18日

<https://www.suzuki.co.jp/release/d/2024/1118a/>

アルプスアルパインCTO泉秀夫氏とTATA
ELXSIのCEOマノジ・ラガバン氏による対談

<https://www.youtube.com/watch?v=HrFiEpXyKo>

5 | KPITと日本企業の提携

- KPITはホンダとソフトウェアに関するパートナーシップに基本合意し、2000名規模に拡大。

KPITテクノロジーズと、ソフトウェア開発に関するパートナーシップに基本合意

2023.03.15

<https://global.honda/jp/news/2023/c230315b.html>

Hondaは、KPIT Technologies Limited(以下、KPITテクノロジーズ)と、ソフトウェア開発に関するパートナーシップに基本合意しました。

昨今の自動車市場では、電動化や自動化、コネクテッドカーの普及が加速しており、これらに必要な高いソフトウェア開発力が不可欠となっています。さらに今後は、次世代モビリティの価値創造に向けて、ソフトウェアがハードウェアやサービスの価値を定義する「ソフトウェアデファインドモビリティ」の発想に基づく開発が加速していくなど、ソフトウェア開発の重要性は増しています。

こうした中、Hondaは、ソフトウェア開発に強みをもつKPITテクノロジーズとのパートナーシップに基本合意しました。このパートナーシップを通じて、Hondaが持つソフトウェアアーキテクチャや制御・安全技術と、KPITテクノロジーズが持つソフトウェア開発力といった互いの強みを持ち寄り、ソフトウェアがもたらす新たな価値の実現を目指します。なお、本パートナーシップに基づき、KPITテクノロジーズは、車両システムソフトウェア開発エキスパートを2030年に向けて2,000名規模に拡大する予定です。

本パートナーシップに基づく両社の協業内容は、以下の領域に於けるソフトウェア開発です。

- ・次世代電子プラットフォームのオペレーティングシステム
- ・電動パワートレーン
- ・先進安全、自動運転
- ・IVI(インピークルインフォテインメント)、コネクテッド